

小児科 研修登録医プログラム 6

プログラム名：臨床法医学での損傷評価、被虐待児診察

背景：

法医学では解剖を基に損傷の成傷機転を考察している。中でも生体を対象とした法医学の領域は臨床法医学と呼ばれる。臨床法医学は患者を包括的に診察し、客観的記録を残し、内外因問わずに鑑別し検査を行って成傷機転や原因疾患を模索する科学であり、司法手続きにおける客観的資料を作成できる。年々増加する児童虐待において医学的評価は大きな比重を占めており、臨床法医学の知識は精緻な虐待評価に有用である。

千葉大学医学部附属病院小児科と千葉大学医学部法医学教室は児童虐待評価や Child Death Review(CDR)において協力関係にあり、人材交流も行い法医学の知識を臨床現場に還元する事業を行っている。また、2018年には全国の大学病院初の臨床法医外来を開設した。本プログラムでは臨床現場と法医学が協働する最先端のシステムを研修できる。

目標：

- 1)児童虐待における外表評価、理学所見、記録方法を修得する
- 2)児童虐待における検査評価（感染症検査、画像検査を含む）、他科連携を行う
- 3)児童虐待を取り巻く各機関の連携を学ぶ
- 4)解剖事例における法医学的損傷評価を修得する

方 略：

- 1)期間・研修開始時期：3か月
- 2)指導医：濱田 洋通（教授、小児科/小児科専門医・指導医）
齋藤 直樹（千葉大学法医学教育研究センター助教、小児科/小児科専門医）
- 3)募集定員：同一時期に1-2名
- 4)研修内容：
 - ① 小児科臨床法医外来にて被虐待児童の診察に参加する
 - ② 小児科臨床法医外来・病棟にて血液検査、感染症検査、MRI、CT、全身骨レントゲンなどの諸検査、他科外来受診に参加する
 - ③ 千葉大学病院家族支援チーム（FAST）会議や個別支援会議に参加して他機関連携を学ぶ
 - ④ 千葉大法医解剖の立ち会い、法医学教室会議に参加して外表所見採取、損傷評価を学ぶ
 - ⑤ 被虐待児の診察、解剖立ち会い時に客観的な外表所見の記録方法を学ぶ
 - ⑥ 研修終了に際して指導医との討議の場を設け、質疑応答を行い、指導医からフィードバックを受ける

5)スケジュール

No	日時	研修項目	指導医	場所
1	水	オリエンテーション、施設見学、 スタッフ紹介、症例検討会参加	齋藤直樹	法医学教室
2	月～金	解剖立ち会い	齋藤直樹	法医学教室
3	火、金	臨床法医外来	齋藤直樹	小児科外来
4	月、火	千葉大 FAST 会議参加	齋藤直樹	会議室
5	月～金	個別支援会議参加	齋藤直樹	会議室
6	水	症例検討会参加、口頭試問、修了 認定	齋藤直樹	法医学教室

※2, 3, 4 は任意で複数回参加可

評 価：

1)MCQ (プレ・ポスト形式)

2)口頭試問

3)実地試験 (損傷記録、評価を指導医が評価)

修了認定：

評価基準を満たしたものにコース修了証書を授与する